

未来若者プロジェクト

若者が魅力を感じるサービスやライフスタイルを創出し、若者の交流、定住を促進します。

- (魅力ある子育て、教育、交流、産業などの創出に向けて)
- ▶民間プレイヤーの育成支援
- ▶エリア再生や構想の策定
- ▶公民連携でのサービス充実



具体的な事業

- ▶若者に魅力あるサービス等創出事業
- ▶まきのほら産業・地域活性化センター事業
- ▶ホストタウン推進事業

高台開発プロジェクト

交通インフラの有効活用、消費や交流の拠点づくり、安心安全な住宅・産業用地の確保を行い、定住・交流人口の増加を図ります。

- ▶相良牧之原 I C 北側開発
- ▶新幹線新駅の設置および企業などのニーズに合わせた開発



具体的な事業

- ▶東名相良牧之原 I C 北側開発事業
- ▶移住定住促進補助事業

公共施設最適化プロジェクト

公共施設の更新、統廃合、長寿命化に計画的に取り組みます。また、今ある施設を賢く使うことで、サービスの質の向上を図ります。

- ▶公共施設マネジメント基本計画の時点修正
- ▶学校、保育園などの施設分類別の個別計画を策定



具体的な事業

- ▶保育園等施設マネジメント事業
- ▶学校再編計画策定事業
- ▶消防施設整備事業
- ▶旧片浜小学校利活用推進事業

# にぎわいと魅力ある住環境の実現に向けて

## —第2次総合計画後期基本計画スタート—



市では、平成31(2019)年度から平成34(2023)年度までのまちづくりの方向性を示す「第2次総合計画後期基本計画」を策定しました。この計画では、若者が魅力を感じる住環境づくりなどに、特に力を入れることとしています。

4月からこの計画に沿って、計画的・戦略的にまちづくりを進めていきます。

問い合わせ 秘書政策課 本間 ☎0052

検討の経緯

本市では、リーマンショックや東日本大震災などの影響を受け、平成25年には年間700人以上の人口が流出していました。

市では、平成27年を始期とする第2次総合計画前期基本計画に、5つの重点プロジェクト

クトを位置づけ、子育て支援の充実、東名相良牧之原 I C 北側開発の推進、旧片浜小学校などの公共施設の利活用、防災施設の建設などに取り組み、人口減少の抑制を図ってきました。

平成29年には、製造業の好調さなどの後押しもあり、人口全体の流出には歯止めがかかりましたが、若者世代の流出は止まらず、若者世代の移住・定住に係る効果的な対策が求められていました。

策定の流れ

市では、前期基本計画の検証などを基に、課題や次期計画に必要な事項を整理すると



総合計画審議会の小泉会長(右)から杉本市長に答申

後期基本計画の概要

健康福祉、教育文化、産業経済、生活基盤、防災、市政の6政策に25の施策を位置付け、その4年間の方向性を明確にしました。

また、戦略的な観点から総合的、横断的、優先的に取り組む戦略プロジェクトを設けました。

次ページでは、3つの戦略プロジェクトの内容などについてお知らせします。



第2次牧之原市総合計画 基本構想 後期基本計画

若者が求めるサービスの創出を支援

若者のニーズに合ったサービスなど(例えば、海岸や里山の自然を活かした体験事業、空き家や空き店舗を活用した飲食、宿泊事業など)の創出に民間主導で取り組む人を支援します。先進事例を学ぶ場をつくるとともに、事業コンセプトや事業計画、収支計画などの作成を支援するメニューを用意し、本年6月ごろからの実施を予定しています。詳細が決まり次第、市ホームページなどでお知らせしますので、興味のある人は市秘書政策課(☎0052)までご連絡ください。

まきのほら産業・地域活性化センターを設立

4月1日に、一般社団法人「まきのほら産業・地域活性化センター」を設立しました。当センターは、多業種が連携した地域振興の推進を担う組織として、シティプロモーションや来訪者の誘致などに取り組みます。事務所は、総合観光センター内に置きます。



総合観光センター(静波区)

ともに、総合計画審議会に諮問し、計画案の内容を審議してもらいました。また、計画案に対するパブリックコメントを実施し、後期基本計画案を作成しました。